

住民の声

今回は、地域で頑張つている方たちの声をお聞きたく、大方地域の加持川本谷部落をお尋ねしました。

本谷部落は、加持川の上流部に位置し、戸数13戸、人口26人の小集落です。

お尋ねした6月1日(日)に

は、部落住民総出による花壇の整備が行われていました。

現場は、地区内の町道わきの「ゲジキの広場」。ここは地域の方たちが、毎年花見を楽しんでいる所にも関わらず、多くのゴミが放置されていて問題視されていましたが、一般の町によるゴミの撤去を



地域の守り神「熊野神社」

今年の秋には熊野神社のお神輿が新調の予定もあり、10月5日の秋祭りに合わせいろいろな花を咲かせるので、是非、見に来て下さい」と気合いでいる皆さんでした。

機に、この広場の公園化を目指して今回の花壇の整備となつたとのことです。準備を含め3日がかりの作業とのことで、前日から、すぐそばの杉の植林から丸太を切り出して枠を組み、腐葉土をたっぷり混ぜ込んだ土がダンプカーで大量に運び込まれました。

「今年の秋には熊野神社のお神輿が新調の予定もあり、10月5日の秋祭りに合わせいろいろな花を咲かせるので、是非、見に来て下さい」と気合いでいるところです。

当地域の「あつたかふれあいセンター北郷」も3年目となり地域に定着している。また、集落活動センターも立ち上げていただき活動中だが、これらが益々地域住民に活用されるように願っている。

部落は小さいが、こんなふうにみんなの協力があるのでやっていける。また、このように住民みんなでひとつ的目的を持つことこそ大事だと思える。



整備が急がれる本谷西線



完成した花壇をバックに、当日参加された皆さん。左端が齐藤区長

議会広報常任委員会
委員長 宮川 徳光
副委員長 藤本 岩義
委員 坂本 あや
森 治史
同 同 下村 勝幸
同 同 宮地 葉子

広報委員一同

として、災害時の孤立防止や、農作業時の利便性を考慮した本谷西線の拡張整備があり、部落あげて取組んでいます。

去る6月4日から5日にかけての大雪により、町内には多くの被害がありました。順次、復旧して来ています。

復旧と言えば、今定例会に先立つ5月中旬に、議員全員で東日本大震災被災地の3年後の視察研修を行いました。その内

容は、今議会広報の「被災地の3年後を訪ねて」題した3常任委員長のリポートもありますが、多くの地区で宅地を浸水区域外に設けるための造成工事が行われており、ある市では、これだけで後2~3年かかるとのことで、その規模の大きさには驚かされました。

編集後記